

講演を行うミライ口社長の垣内さん(右)＝上毛ホール



「障害者配慮し商機」

ミライ口の垣内社長 講演

前橋でGIS

次代を担う起業家を育成する「群馬イノベーションスクール」(GIS、田中仁財団主宰)の第4回講義が23日、前橋市の上毛新聞社上毛ホールで開かれた。ユニバーサルデザインなどのコンサルタント、ミライ口(大阪市)の垣内俊哉社長が講演し、障害者への配慮の拡充は社会貢献だけでなく、大きな商機となっていることを強調した。

生まれつき骨がもろく車いすで生活する垣内さんは、自身の経験から「日本人は障害者に対し、無関心か過剰のどちらか」と分析。善意だという思い込みを押しつけてしまいがちだが、障害者は選択肢を求めていると指摘した。

車いすで入店できる店舗や施設はまだ少数とし、自

らがデザインやスタッフ教育を監修したテーマパークを例に「リピート率が高まり、大きな利益を上げてい

る。社会貢献の観点だけでは限界があるが、ユニバーサルデザインは企業のビジネスチャンスになっている

る」と述べた。

垣内さんは大学在学中の2010年に同社を創業。障害を価値と位置づける

「バリアフリー」を提唱し、障害者や高齢者をはじめとするあらゆる人が使いやすいユニバーサルデザインの監修や教育研修などを手掛けている。